

## 知事との県民対話集会（下條村）概要

- ・開催日時 令和4年12月23日（金） 午前10時から午前11時30分まで
- ・会場 下條村コスモホール 披露宴会場
- ・参加者 県民50名、金田下條村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ 担い手の確保・育成

### ・主な発言（要旨）

#### 【参加者】

- ・中山間地域で経営が維持できなくなった農地の有効活用について、県の考えを聞きたい。

#### 【知事】

- ・農地を譲りたい人と、使いたい人をつなげないと人口流動も起きないし、産業維持にもつながらない。人・農地プランだけでは進まないと思うので、県としても考えたい。
- ・後継者がいない農地は集約化の方向だか、課題もあると思うので考えたい。

#### 【参加者】

- ・国の新規就農支援の年齢制限は50歳だが、新しいことに取り組むこと、耕地面積を拡大することが要件となっている。農家を継ごうとする50歳以上の者に対し、国の支援制度の拡充が必要。

#### 【知事】

- ・国の感覚と現場の実態が違うことがある。年齢や事業要件など制度的な問題についてはしっかり考えたい。

#### 【参加者】

- ・中山間地域の農地は急勾配で、除草作業は生産と同じくらい労力が必要。作業軽減のための支援が考えられないか。

#### 【知事】

- ・新規就農を阻むのは機械購入費が高いこと。除草機械を共同で確保できないものか。

#### 【参加者】

- ・農業を手伝ってもらっているシルバー人材センターも高齢化が進んでいる。副業の取組を広げ、農業経営者とマッチングできる仕組みができると農業を支える力になる。

#### 【知事】

- ・県職員も地域貢献できる活動については副業を可能としている。地域振興局で管内の現地機関に宣伝してほしい。皆さんにも県職員を使ってほしい。
- ・アプリを通じて求人し、繁忙期に手伝ってもらう仕組みがある。個人ではなく村でやった方が呼び掛けやすいと思う。
- ・障がいや作業内容にもよるが、農福連携について一緒に考えてほしい。

#### 【参加者】

- ・鹿や猪に農作物を荒らされるが、狩猟者も高齢化が進み、獣が増えそうで心配。県は頭数のコントロール方法について考えているのか。

#### 【知事】

- ・防護柵や鳥獣被害対策で被害は減ってきている。県も狩猟の講習をしており、罠はできると思うので、地域の皆さんも1人多役になってもらえるといい。

**【参加者】**

・起業する機会に恵まれない地域になっていると感じる。補助金等の支援制度を見つけやすくしてもらえるとありがたい。

**【知事】**

・人口密度が低い地域のビジネスモデルを考えていけないといけない。農林業などに比べ、産業面の支援は手薄だと思っている。商工会の人ともよく話して考えたい。

**【参加者】**

・コロナによる県の時短要請は20時まで。通常営業も20時までのため、売り上げは半分になったのに、協力金は対象外でもらえなかった。今後こうした要請をする際には、村部の店の営業形態も考えてほしい。

**【知事】**

・協力金は国から支給されるもので、国の制度では20時までの時短をした店が対象となっていたため協力金が出ないことになった。  
・国と県の行政のあり方を変えたいと思っているので応援してほしい。

**【参加者】**

・不登校の子どもが多くなっている。教員の働き方改革は大切。教員数を増やして子どもの心のケアができるようにしてほしい。  
・不登校で苦しんでいる人がたくさんいる。明日命を絶つのではないかという人もいる。フリースクールや学びの場所を作るための支援を、県も全国に先駆けて実施してほしい。  
・お母さん達が孤立しているという現状を知ってほしい。子どもの行く末を案じて自殺を考える母親もいる。

**【知事】**

・村としても重要課題として受け止めていると聞いている。村長からは、居場所づくりにはソフトが大事だと支援の要望をいただいているので一緒に考えたい。  
・フリースクールは、来年度、認証制度を作ろうと思っている。行政の枠外で一生懸命取り組んでいる人を応援する方法として実施したい。  
・県も自殺対策支援チームでハイリスクな人に専門家がフォローする仕組みを作っているの、自殺を企図する人がいたら教えてほしい。